

[博士論文審査要旨]

申請者：李建儒

論文題目 国際的な戦略的提携における知識経営

審査員 藤原雅俊

島本実

西野和美

本論文は、国際的な戦略的提携企業間における知識移転および知識適応化のプロセスを丹念に辿ることによって、そこで生じる学習メカニズムを明らかにしたものである。関連領域における先行研究を幅広く丁寧にレビューして整理した上で、分析枠組みを導出し、日系企業の台湾市場展開時における2つの戦略的提携事例を詳細な聞き取り調査によって定性的に分析している。

具体的な分析内容としては第一に、日本ファミリーマートと台湾での合弁相手である国産自動車側との間における知識移転および知識適応化プロセスを分析し、台湾事業の開始前後における学習内容の違いがあることを明らかにしている。その上で、これまで先行研究が必ずしも詳細には明らかにしてこなかった、事業開始後に現地の文脈に合わせて学習を進めることによって知識を適応化させていくメカニズムとその重要性を提示している。ついで第二に、トヨタ自動車とホータイ・モーターとの間における知識移転および知識適応化に関して分析の対象時間軸を伸ばして調査し、現地市場の変化に合わせた知識再適応化の重要性とそれを支える学習プロセスを明らかにしている。これらの国際的な戦略的提携時に生じる知識の移転と適応化のプロセスを分析した本論文は、個人単位での学習活動に注目した点に分析上の大きな特徴があり、ミクロ的基礎に注目して近年展開されている諸研究群に対して貢献を果たすものとして評価される。

一方で、本論文にはいくつかの課題も残されている。第一に、本論文が注目している個人単位での学習活動に加えて、個人間での相互作用を通じた学習に関する分析余地が挙げられる。第二に、本論文が指摘する知識のすり合わせ内容について、より明瞭に分析した方が望ましい。そして第三に、学習内容について例えば、それが現場で完結する学習なのか、進出先市場の本部との相互作用を要する学習なのか、それとも、母国企業との相互作用をも要する学習なのか、というように分類することによって行為主体間での学習メカニズムをより豊かに解明できる。しかし、これらの課題があるとはいえ、いずれについても今後の研究活動の中で十分に解明可能なものであり、本論文そのものの価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。